

雑 報

● 酩酊に就て

▲酩酊とは何か 云ふ迄も無く酒精中毒の状態を言ふもので精酒でもビールでも葡萄酒でも林檎酒でも其他何種の酒でも凡て酒精を含んだ飲料を飲めば必ず酩酊するものである併し酩酊には二種類ある一つは慢性で他は急性であるが通常酩酊した即ち酔つたと云ふ場合は多く酒精の急性中毒の場合を稱するのである。

▲中毒作用と悲劇 一は單一酩酊又は普通酩酊とも云ふべきで酒精は肉體に精神に確かに中毒作用は起して居るが併し大した變化を與へない例へば一寸目の縁が赤くなつたとか胸がドキ／＼すると云ふ位に過ぎないのである併し一層進んで複雑酩酊又は病的酩酊といふのになると知覺の上にも運動の上にも非常なる大變化を起して平素弱い人が大層強くなつたり平常笑て居る人が泣出したり其他有害無害のあらゆる状態に人を導くのである而

して此種の酩酊は精神病質の人神經質の人又は中毒性となつて平素も酒の爲めに普通酩酊の状態にある人などになると特に烈しい變化を起すもので此の爲めに社會には日々幾多の悲劇喜劇を生み出して新聞の三面を賑はす事になるのであります。

▲何故酩酊するか 酒精が神經中樞其他知覺、運動神經を刺激し又は麻痺して了ふので酒を飲んで酩酊すると第一に意識が混濁し或は無意識となる混濁の方は五官が働きは働いても總て明瞭しなくなるのであるが更に無意識又は人事不省となると何が何やら薩張り解らず夢中になるので即ち便所の中を寢所と思つたり大亂暴をして警察に曳かれ翌日氣が付いても一向知らないと言ふのが是である第一に注意力が減少し過誤が多くなる例へば物を忘れて來たり後から知らぬ人の肩を叩いたりする如なのである、第三に知覺は鈍くなり錯覺となつて物事を視聽しても凡べてが混線し、幻覺となつて無い事がある如に思ふ、例とへば神様が見えたとか、狐が居ると騒わぐ如なのであり、第四は

了解が非常に困難になつて一つ事を何遍聽かされても奈何しても了承が出来なくなる第五に記憶は一時全く脱出して所謂健忘となるので飲酒家の諄いのは此理である又無暗と記憶違ひをして飛んだ事など言出し忤する、第六に感情及感動が發作的に何事も愉快になつて騒ぎ廻る人もあれば沈鬱性と云つて無暗に鬱ぎ込み泣き出すもあり其他様々の作用を起し、第七に聯想は遅くなり又は速くなり或は錯亂して更に纏らないから試験の際など酩酊の氣があると答案は少しも纏まらぬ扱て第八第九に考慮及判斷は如何變化を來すかと云へば其缺乏の方は良いとしても其妄想になると。

▲最も危険なる 結果を起すので其の中誇大妄想は自分は酔つてるとは知らず平素は猫の如き人も急に虎の如になり無暗に偉らがつて威張り散らし以つて愉快とする類であるから間違つて喧嘩する位ゐのところは未だ愛嬌もあるが嫉妬妄想となると平素貞操な妻を疑がひ又は然もないことに邪推したりして其正直な辯解もすればする程益々曲つて取る結局は殴打となり及物三昧となるので私

が裁判所などで鑑定した事件の起因が此の嫉妬妄想であつた事は無數で實に三面種の供給の基と云つてよい最一つ被害妄想と云つて何事も他が自分を迫害する如に考へ他の世間談しで居るのも自分を陥る相談かと思ひ後から來る人も自分の者を奪るのではないかなど非常に恐れ安心の出來ぬので恁麼なのは多く酩酊中に發狂し又は自殺などする是に似たのが罪業妄想と云ふので自己のした些細の過誤なども大罪惡の如く自らを責めて已まず之も極端になると自殺になる最後に意志及行動は酩酊の爲め如何に變ずるかと云へば一から九の如く順次に違つて來たので無論何所でも正しい譯はなく興奮運動と云つて精神の興奮の爲め軀の方も何でも出來ると考へたり衝動行爲と云つて無意識で惡戯したり又は出齒根性などを起す其他表出運動と云つて顔面を様々に變化させ又は靜乎と出來ないで無暗に飛び跳ね騒ぎ歩るきなどする言語はと云へば呂律も無く疳高となり手書などはブルブルと震へ亂れて出來なくなる云々。(中央)

● 何んな玩具がよいか

大阪市の幼稚園長會では市中の各玩具店の玩具の中から家庭などで幼児に持たせて良いと認めたものを選定したがこれは各家庭の参考となるものである。

ゴム製人形及動植物、繪合の類、木製ロクロ、木製電話、組立人形、不倒翁、米搗車、粘土及其附屬具、手帳鉛筆、眞田紐、小石ボンブ、家具類模形、毬のせ、寫繪、寫眞眼鏡、勳章類、寫眞機、色紙、馬車、自轉車、人力車、荷車、動植物模造、寫眞、置紐面、花、智慧輪、自動車、軍船、帆掛船、兩眼鏡、不思議の變り繪、犬張子、春駒、バイオリン、オルゴール、紙風琴、琴、茶道具裁縫用具、靴、玉入れ、玉コロガシ、毛人形、木製煉瓦、色カルタ、繪ガルト、噴水、紙製石盤、油繪カード、廻り燈籠、パケツ、漏斗、箱、小間物店、ハーモニカ、飛ンデコイ、バス、郵便遊具切切符、學校遊具、シャボン球、角力人形、龜山チヨンペー、線スベリ

人形、デアボロ、銀行遊具、鐵琴、組立繪(立て、種々景色等を造るもの) 教育幼稚園玩具、新案教育動物早替

さて幼児の保護上必要な玩具の効能がザツと分る即ち鐵砲や刀などは小兒の實行の勇氣を養ふ、お手玉や玉入れ(これは硝子の張た盆のやうなものや、木の小さい盆の中に渦のやうな垣や、人形の顔などがあつて、小さい玉が口や眼に這入つたり垣を潜つたりする掌上玩具)は忍耐力を増進する環投げ、弓矢、羽子板は注意力を、繪畫、人形等は美しい人情を、着物着せかえ人形、積木、組繪笛、喇叭等は耳を敏くし、風船玉、眼鏡等は眼の力を養ふから此等は皆な有益な玩具である併し幼兒と云つても生れて間のない者もあり小學校へ通うて二三年も絶つたのもあるからそれに從つて種類が違ふ、即ちまだ襁褓の裏に在る頃ならば風車風船、でんぐ太鼓、笙の笛、旗などで之は唯だ見て居る時代だ、次は安坐、匍匐時期で子供は漸く玩具を手を持つ頃でオシャブリ(木又は象牙)ゴム人

形、ゴム毬、ガラト（セルロイド製）犬猫等（ゴム又は磁器）ソレから立て歩く時代になると旗（布）太鼓笛（木製）ラッパ（木製）不倒翁（木製）馬、猿、兎、雞等（磁器又は布製）などが適當で更に生後一ヶ年以上になると玉乘人形負ひ猿、磁器、ゴム製の魚、天神様、達磨等であるが以上の時期の玩具は（一）消毒に注意すること（二）剝げる繪具のものを避けること、次に三歳から六歳までは動物及び人物畫、動物標本、風船、毬（ゴム、綿）凧、獨樂、繪本、眼鏡（色眼鏡蟲眼鏡）龍吐水、舟、車、コロッブ銃、刀（サーバル）積木組立人形、まゝごと道具、又た七歳から十歳までは器械にて活動する動物、船車類、ハーモニカ、手風琴、輪（竹又は鐵）繩（繩飛びに用ゆ）繪合せ、羽子板などが宜しい、注意すべきはブリキ、硝子等の玩具を避けること、賭けごとのやうな玩具を避けること、活動的に弄ぶものを選ぶ、こわして遊ぶものよりも組み立て、遊ぶものがよい等の心得である。（大阪毎日）

●セルロイドの製品

近頃小間物屋や玩具屋の店頭に並べられてある物の中に、セルロイド製の種々の物がございます、多くの人は之を謾製のものと思つて見て居りますが、セルロイドの原料は樟腦と綿との二種を以て製造するのでありまして、生地は鼈甲のやうにも象牙のやうにも翡翠のやうにも、木目のある木地の漆細工のやうにでも、つまり繪の具の用ひ方と思ふまゝのものが何でも出来るのであります、外國では此セルロイドが、美術品及び種々なるものに應用されて居りますが、我國では原料を外國から輸入し、それに加工をすると比較的高價なものに付きますので、從來はただ簪とか洋傘の柄とか云ふやうなものに用ひられて居つたばかりです處が近頃種々な美術的雜貨品や玩具等が造られるやうになりました、なほ其上に京橋銀座のセルロイド會社では目下外國から原料製造の機械を取寄中ですから間もなく原料が盛に製出さるゝやうになりませうさうなりますと、御承知の通り我國で

は臺灣から樟腦が澤山産出されますから、原料が
ズツと廉くなりまして、従て之に蒔繪蝶貝細工其
他美術的工藝の手を加へまして、今日よりはズ
ツと恰好になると云ふことです、同社には蒔繪の
硯箱菓子器其他種々な雜貨玩具小間物類が陳列し
てありますが、就中玩具は少しも危険がなく、小
さいお子さん方には最も適當であらうと思つて見
て參りましたそれから、手帳ですこれは鉛筆で書
きますと文字は鮮明に描寫されますが、護謄で消
しますと、跡方もなく奇麗になります幾度も用
ひられますから、家庭に於ける主婦方が一日の重
要な事柄、又は小遣などの假記入をして心覺への
契とさるゝには大變重寶であらうと思ひました、
それからメタル、これも文字が極めて鮮明に印刷
されて居りまして、價も廉でありますから、團體
若くは何かの催しの時などの徽章に用ひたならば
風變りで面白からうと思ひます、兎に角これから
護謄でないセルロイドが益々流行しませうから、
御參考にもと思つて、聞いたまゝを記して見まし
た。(時事)

● 布哇より來信

秋冷相催し御地にては秋の錦に野山の景色を添へ
させられ候頃と何につけてもおなつかしく存候
扱て先頃は御無理を御願ひ申上候に早速御聞き届
被下數々御送附被下一同大に喜び申候御かげにて
生先き永き稚子も故國の稚子の如くにかれこれと
導かれ候事と一同に代り深く御禮申上候
去る三日は布哇に於ける第二回目の節會に會ひ申
候丁度帝國の練習艦隊淺間笠置の二艦二日に着い
たし候へば一しほの賑ひに御座候ひき
當地在留民の天長節をたのしむ事正月の夫よりも
増り候て學校にては夫々運動會の準備に候て短か
きをかこち夫人連は天長節の夜會にとて新調の衣
服の品定めなど思ひよらぬ事數々ありて一般にた
のしみまち申候其日朝九時より十一時までに領事
館にては一般在留民の拜賀を受けるとして 御聖影
を祭り學校生徒には祝賀の爲菓子を分與いたすな
ど大君の惠のほども思はれて嬉しく存候
私共の學校も中小學七百名に及ばんとする生徒を

引いて領事館に参り拜賀の後君が代を奏し申候故國といまは母校なども思ひ出されておはづかしく候領事館員は一同に正装して一般の拜賀を受けさせられ候

午後三時よりは軍艦のアットホームにて招待されたるは内外人数百名と聞き及び申候軍艦にては航海中に準備されし由にて所々に砲、銃、砲丸などに造花をあしらひて見立細工あり、角力、柔道などありて軍樂隊の奏樂御座候

我國の軍艦とはこり顔に脊低き體を肩そびやかすあり平常の勞働服にかへてシルクハット姿に人見ちがへて笑ふ聲もけふばかりはたのしそくに聞え皆一切に笑顔ならざるはなくこゝは日露戰爭の際のキズこゝは何と説明されてはあゝと喜ぶ聲艦内に充ち申候

五時には旗艦淺間にて宴會は開かれ申候水兵の手になりしとかの造花を以て卓子は飾られ此肉も此ハムも故國のと聞かされては唯も一しほの感いたし候

宴會の席にてをかしきは外人にて箸と匙とを出し

日本人の方にはナイフ、フォークといふ事にて外人はめづらしきことに箸をもちし姿をかしく候日没軍艦旗の下ると共に一同辭して歸途につき申候夜は當地一等のホテルにて夜會有之候が私は朝よりの疲勞に夜は辭して靜に家人と共に天長節を祝し遙に故國を忍び申候

軍艦も一週間の豫定なりしが變更ありて一昨十三日解纜いたし候其英姿を見んと集まりたる同胞皆一時に萬歳をさげび帽をふりて別れを惜しみ候風情は壯大なる艦體と和してたしかに愛國の念を深からしめ候當地に生れたる兒童の爲非常に嬉しく存じ候

よしなき事のみ申上御手間とり申候
先は右御禮申上候かしこ

十一月十四日
赤星 千代子
フレーベル會御中